

別表 1 学校基本方針に基づく取組

1 学 校 全 体 で の 取 組

項 目		児童に関わること	保護者に関わること（学校→保護者→児童生徒）	
① いじめの未然防止		○一人一人の人格を尊重し、自他ともに大切にする考えや行動ができるようにする。（道徳・特活・総合） ○感性を高め、正しい判断力を身に付けさせる。（道徳・特活・総合） ○情報モラルについて指導したり、「短時間でできるミニエクササイズ」の活用を図ったりする。 ○「小学道徳 生きる力」「くまもとの 心」「熊本地震 関連教材つなぐ」等の資料を活用して道徳教育の充実を図る。 ○進んで奉仕・体験活動に取り組ませる。	○自分の物や他人の物を大切に扱うように育てる。 ○友達の間持ちを踏みにじったり、傷つけたりすることの重大さを日ごろから子どもに伝える。 ○ケイタイやインターネットを使うルールづくりを行ったり、人間関係を向上させるスキルを身に付けさせたりする。 ○地域行事等に子どもを積極的に参加させ様々な体験をとおして、集団の一員としての自覚や自信を育む。	
② いじめの早期発見		○子どもが集団から離れて一人で行動している時は、声をかけて話を聞く。 ○個人面談やアンケート調査を実施したり、休み時間や放課後などを利用したりして、子どもから情報を収集する。（タマにゃんチェック、心のアンケート等） ○専門機関等による相談窓口を周知する。 ○上履き・机・椅子・学用品・掲示物などにいたずらがあつたら直ぐに対応し、原因を明らかにする。	○子どもとの会話をできるだけ多くする。 ○服装などの汚れや乱れに気を配る。 ○子どもの持ち物に気を配り、なくなったり、増えたりしていないか観察する。 ○悩みは何でも親に相談できるような雰囲気を、普段からつくっておく。	
③ いじめの早期対応	暴力を伴う場合	いじめられた側	○本人や周辺からの聞き取りを重視し、身体的・精神的な被害についての的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ○休み時間や登下校の際も教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。	○わが子を守り抜く姿勢を見せ、子どもの話に耳を傾け、事実や心情を聞くようにする。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求め協力してもらう。
		いじめた側	○いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み、事実を確認しいじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。 ○教育相談員、児童相談所、警察等、関係諸機関と連携をとる。	○学校は、いじめられた子どもを守ることを第一に考えた対応をとることを保護者に伝える。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聞くようにする。 ○被害児童、保護者に対して、適切な対応（謝罪等）をするように伝える。
	暴力を伴わない場合	いじめられた側	○本人や周辺からの聞き取りを重視し、精神的な被害についての的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ○休み時間や登下校の際も教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。	○わが子を守り抜くという姿勢を子どもに見せるように伝える。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求め協力してもらう。
		いじめた側	○いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み、事実を確認しいじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○教育相談員、関係諸機関等と連携をとる。	○学校は、いじめられた児童を守ることを第一に考えた対応をとることを伝える。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聞くように促す。 ○被害児童、保護者に対して、適切な対応（謝罪等）をするように伝える。
	行為が見えにくい場合	いじめられた側	○つらく苦しい気持ちに共感し、「いじめから全力で守ること」を約束する。 ○本人や周辺からの聞き取りを重視し、精神的なダメージについての的確に把握し、迅速に初期対応する。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。	○わが子を守り抜くという姿勢を子どもに見せるように伝える。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求め協力してもらう。
		いじめた側	○いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み、事実を確認しいじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○教育相談員等と連携をとる。	○学校は、いじめられた子どもを守ることを第一に考えた対応をとることを伝える。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聞くように促す。
子ども周囲にいる		○傍観することはいじめに荷担することと同じであることを考えさせ、いじめられた子どもの苦しみを理解させる。 ○友達の言いなりにならず、自らの意志で行動することの大切さに気づかせる。	○いじめに気づいた時、傍観者とならず助ける側の態度をとることができるよう子どもに育てる。 ○いじめに対する考え方を理解してもらい、どんな場合でもいじめる側や傍観者にはなってはならないという気持ちを育てるように伝える。	

2 家 庭 と 連 携 し た 取 組

○常に自分の子どもに関心をもち、子どものさびしさやストレスに気付く。 ○子どもがいけないことをした時は、叱る。子どもが頑張った時は、褒める。 ○SNSや携帯電話、パソコンを使うルールを、子どもと話し合って決める。 ○くまもと家庭教育支援条例を周知し、家庭教育の意義を語り合う。

3 地 域 と 連 携 し た 取 組

○子どもたちを「地域の宝」として育てる意識をもち、子どもたちに地域から見守られているという安心感をもたせるようにする。 ○子どもたちと顔見知りになるために、子どもたちに出会った時はあいさつや声かけをお願いする。 ○公園や遊び場などで子どもが困っている場面を見かけたら、積極的に声をかけていただく。
--